

マナー・情報収集・ 社会的関心について

学生マナー..... 40

「喫煙マナー」は改善、「授業・ゼミ中の私語」は目立つ

喫煙マナー : 02年度 : 20.5% → 08年度 : 11.8%

授業・ゼミ中の私語 : 02年度 : 22.3% → 08年度 : 32.2%

社会に関する情報収集..... 42

「TV」と「Webサイト」が二大情報源だが、就活には「新聞」も活用

情報源は「TV」: 67.2%、「Webサイト」: 56.4%

4年生の「新聞」利用率は50.6%

社会的関心..... 44

「地球環境問題」に関心高く、ボランティア経験はなし

「地球環境問題」への関心 : 4割、ボランティア活動の「経験無し」: 7割





「喫煙マナー」は改善、 「授業・ゼミ中の私語」は目立つ

学生マナー

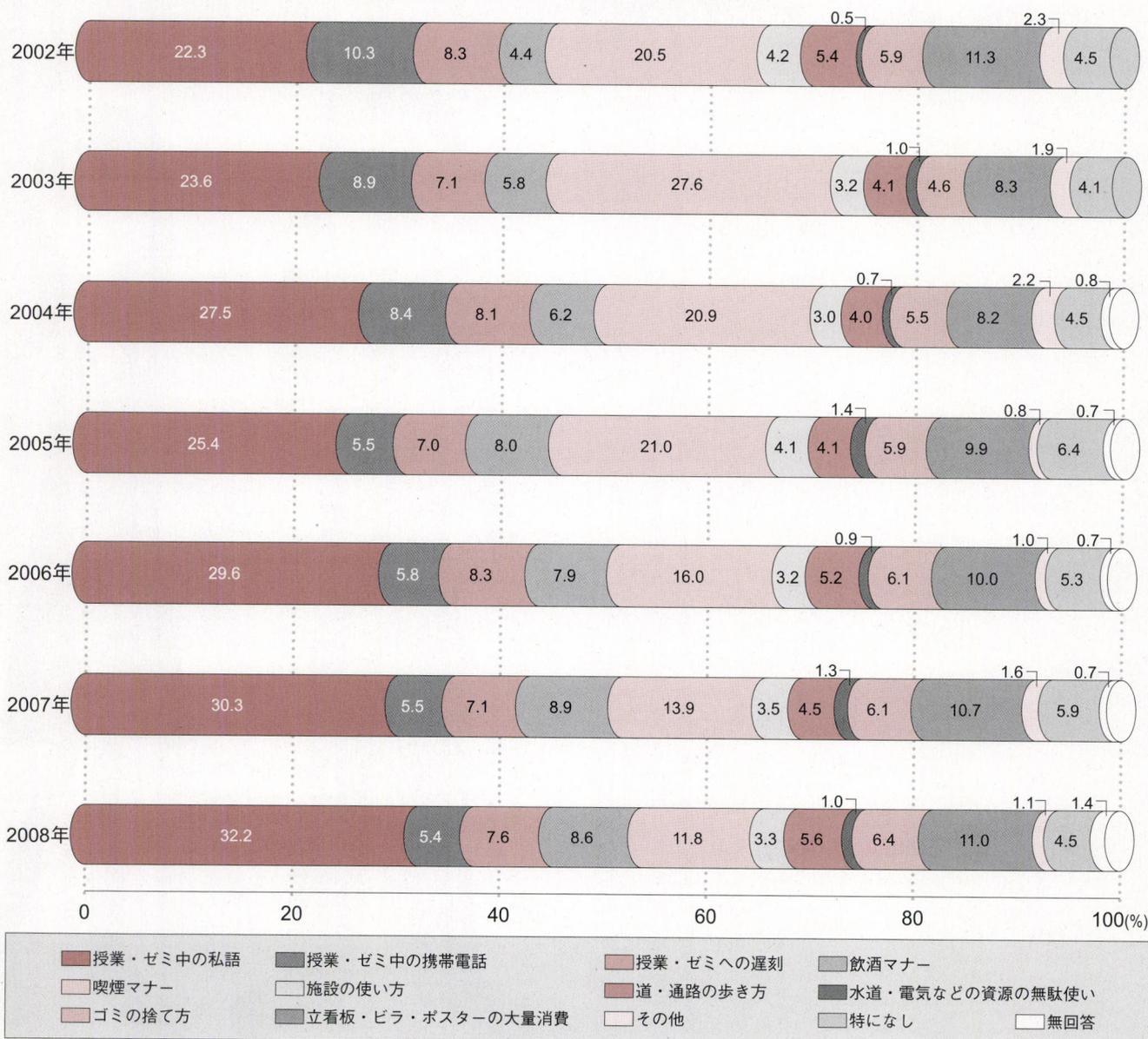
POINT

喫煙マナー : 02年度: **20.5%** → 08年度: **11.8%**
 授業・ゼミ中の私語 : 02年度: **22.3%** → 08年度: **32.2%**

学生マナーが最も悪いと思われる項目のワースト3は、「授業・ゼミ中の私語」「喫煙マナー」「立看板・ビラ・ポスターの大量消費」であり、02年度以降この順位は変わりません。しかし、「喫煙マナー」は改善傾向にあり、08年度は過去7年間で最悪であった03年度の半分以下となっています。喫煙程度は97年度には「吸わない」と回答し

た学生が75.9%であったのに対して、08年度には約9割の学生が「吸わない」と回答しています。この結果は、前回調査時の06年度とほぼ同数でした。「喫煙マナー」改善の要因として、喫煙に対する社会的関心から喫煙者数が減少したこと、喫煙者の意識や行動が改善されたこと、学内分煙化が進められたことなどが考えられます。

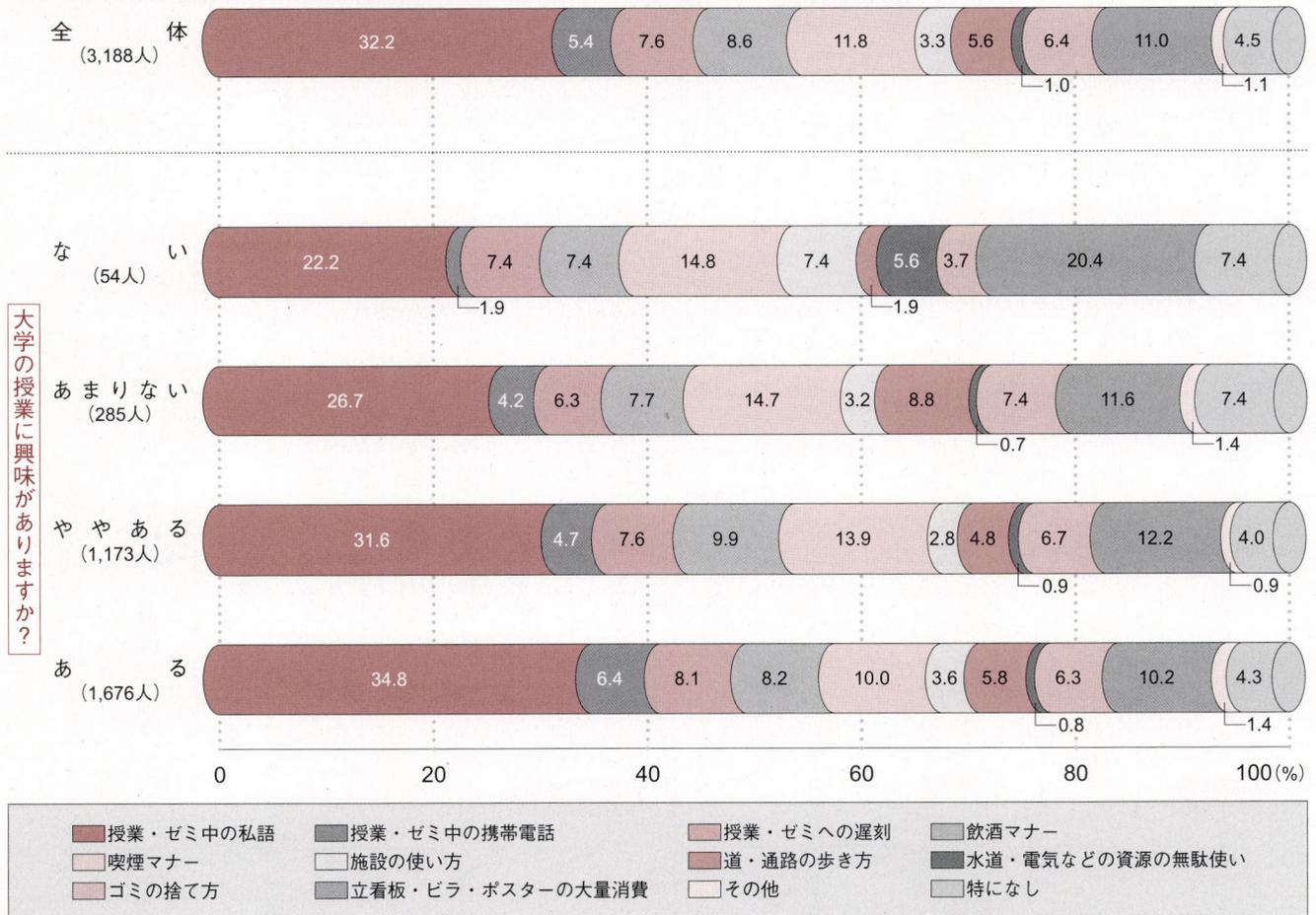
学生のマナーが最も悪いと思われる項目を選んでください。 経年変化



「喫煙マナー」改善の一方で、「授業・ゼミ中の私語」が目立ってきています。当然のことですが、「大学の授業に興味がある」学生ほど「授業・ゼミ中の私語」をマナーが悪いと考えており（34.8%）、「大学の授業に興味がない」と回答した学生では22.2%でした。一方、授業の出席率が「50%未満」の学生（20.7%）を除けば出席率とは明確な相関はなく、「50～70%未満」

（31.4%）、「70～80%未満」（36.1%）、「80～90%未満」（32.4%）、「90～100%」（32.8%）でした。自由回答欄には「私語をする暇を与えないでほしい」、「授業を通して教員が何を伝えたいのか分からない」など授業に対する不満が見受けられることから、「授業・ゼミ中の私語」が目立つ要因として「授業の満足度」とも密接に関係しているようです。

クロス集計 大学の授業に興味がありますか？
凡例 学生のマナーが最も悪いと思われる項目を選んでください。



コラム

学生のマナーの悪さ、全体の32.2%が「授業・ゼミ中の私語」、5.4%が「授業・ゼミ中の携帯電話」と回答！

授業中のマナーの悪さの中でも「授業・ゼミ中の私語」については、02年（22.3%）から年々増え続け、今年度は32.2%にも達してしまいました。同じ教室では、身体に障害を持つ学生も共に学んでいます。例えば、聴覚障がい学生は、支援者（ノートテイク）から先生が話す内容や周りの状況をノートテイクやパソコンテイクにより伝えられています。つまり、支援者が障害を持つ学生の「耳」となっているのです。私語や携帯電話の音により、この学習環境が崩されてしまう恐れがあります。

一人ひとりがほんの少しの気遣いを持つことによって、多くの学生の学習環境の改善が望めます。さらには、自分自身の学習環境の改善にもつながることでしょう。



「TV」と「Webサイト」が二大情報源 だが、就活には「新聞」も活用

社会に関する
情報収集

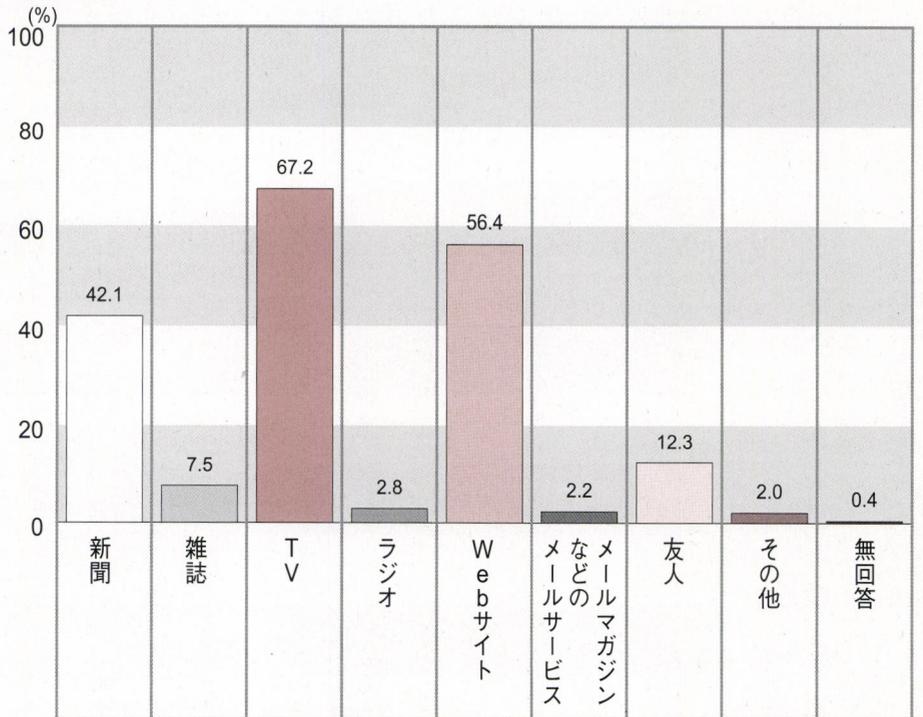


情報源は「TV」：**67.2%**、「Webサイト」：**56.4%**
4年生の「新聞」利用率は**50.6%**

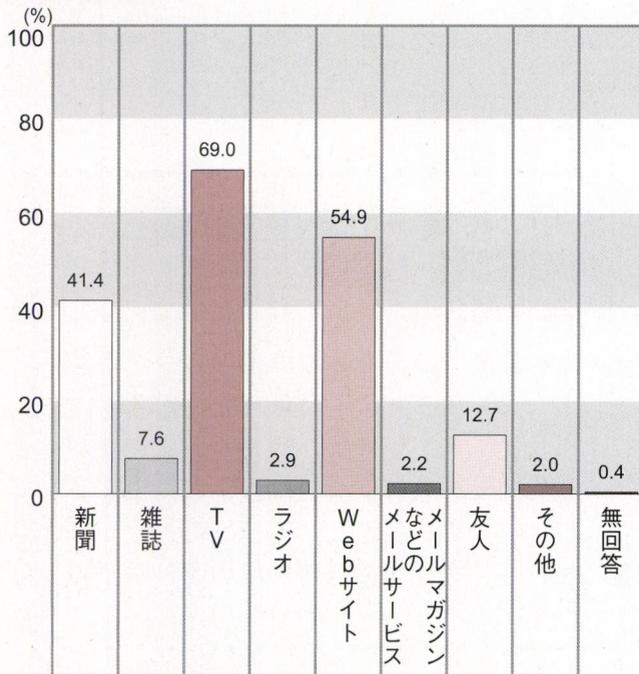
社会に関する情報源のベスト3は、「TV」、「Webサイト」、「新聞」です。この傾向は01年度以降変わりませんが、情報源としての「新聞」は減少傾向にあり、「Webサイト」は増加傾向にあります。「TV」は01年度から08年度まで大きな変化はなく約7割の学生が情報源としています。

社会に関する情報は主にどこから入手しますか？(主なものを2つまで選択)

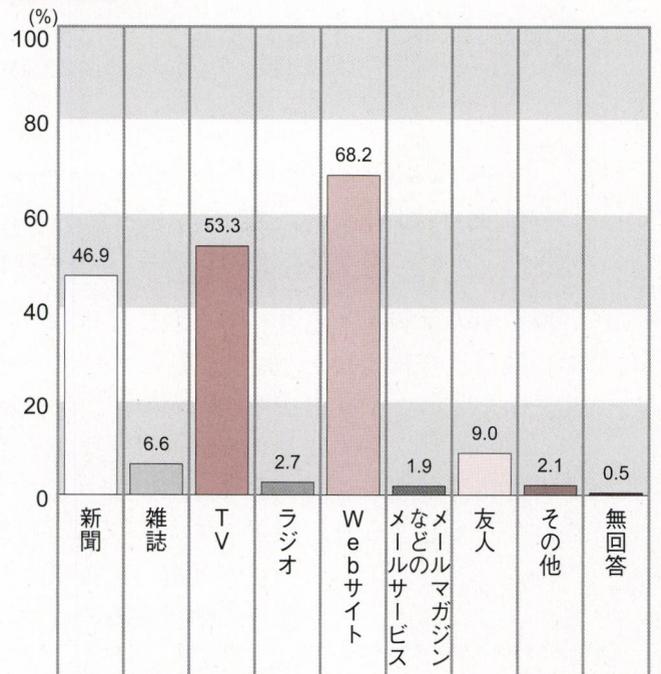
全体



学部



大学院

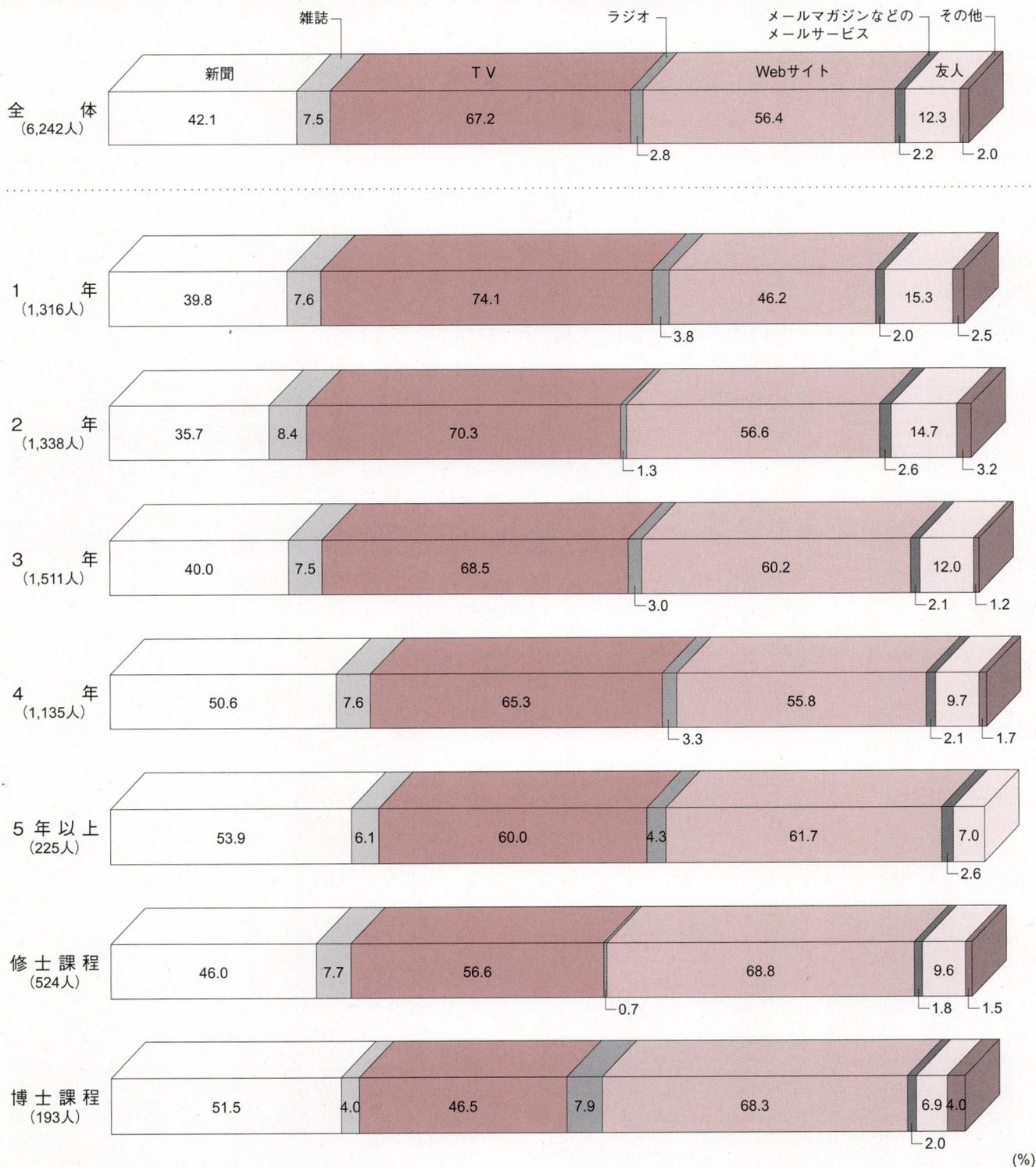


学年別でみると、上級学年ほど「TV」が減少し、就職活動を行う4年生では「新聞」の利用率が最も高くなっています。また、授業に興味の「ある」学生は、「新聞」の利用率が高いようです(47.6%)。授業の満足度が「高い」学生ほど「新聞」の利用率が高いですが、授業の出席率とは明瞭な相関性はみとめられません。学部別では、政治経済学部(55.7%)、法学部(53.2%)、第二文学部(53.9%)など文系の学部学生で「新聞」の利用

率が高く、理系の学部学生(25.3~39.2%)で低い傾向にあります。

大学院学生は学部学生に比べて「Webサイト」と「新聞」の利用率が高い傾向にあります。「新聞」利用率の増加傾向は、理系の大学院学生で顕著です(36.4~57.4%)。文系に比べて理系の学部学生は大学院への進学率が高く、大学院で本格的に就職活動を行う学生が多いことと関係がありそうです。

社会に関する情報は主にどこから入手しますか？(主なものを2つまで選択) 学年別





社会的関心

「地球環境問題」に関心高く、ボランティア経験はなし

POINT

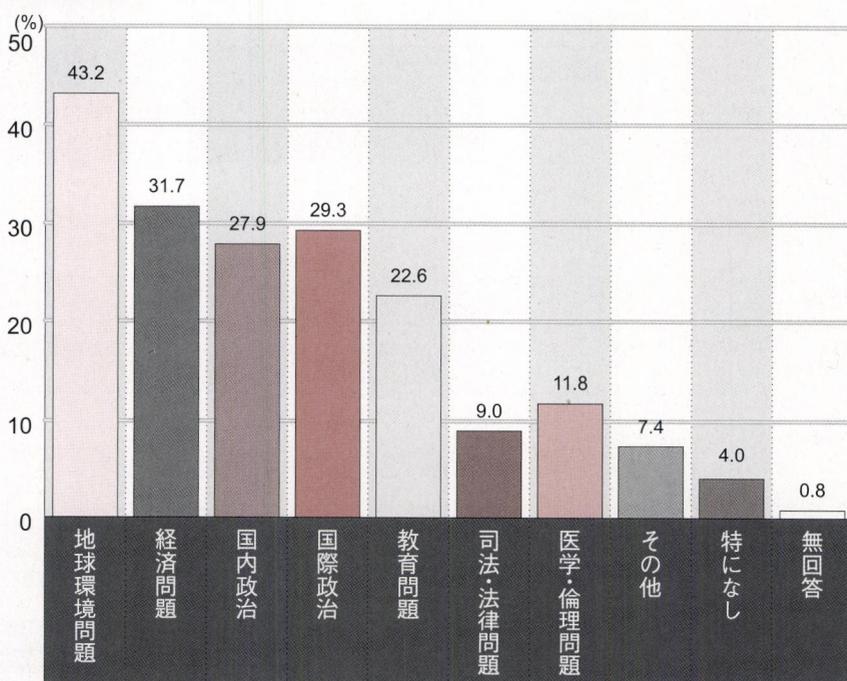
「地球環境問題」への関心：**4割**、
ボランティア活動の「経験無し」：**7割**

関心の高い社会問題は、全体で見ると「地球環境問題」が4割を超え、「経済問題」「国際政治」「国内政治」がそれぞれ3割程度、「教育問題」が2割強です。前回調査時（2006年度）に比べると「地球環境問題」への関心が14ポイント増加し、「教育問題」への関心が8ポイント減少しています。

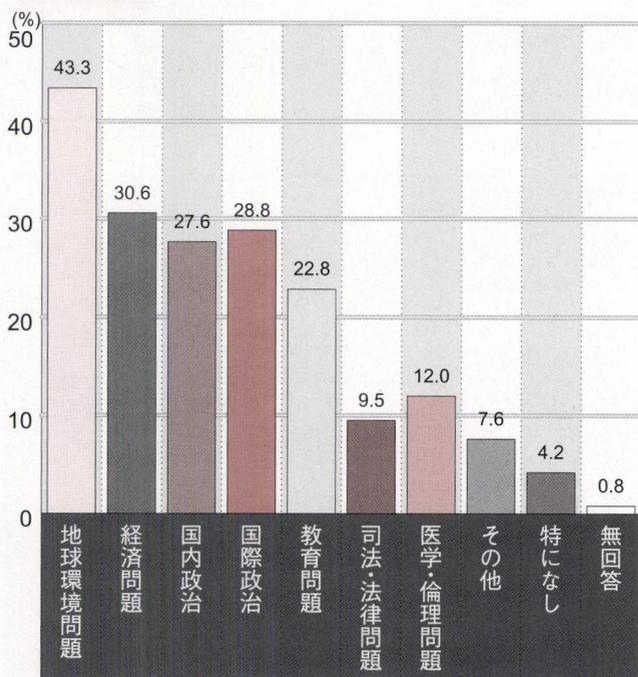
学部学生と大学院学生で分けると、「地球環境問題」への関心が4割を超えることに変わりはありませんが、大学院学生では「経済問題」への関心が9ポイント増加します。学部別では、理系学部で「地球環境問題」への関心が高いですが（51.2%）、各学部に密接に関係した社会問題への関心が高い傾向にあります。

現在関心の高い社会問題を選んでください(主なものを2つまで選択)

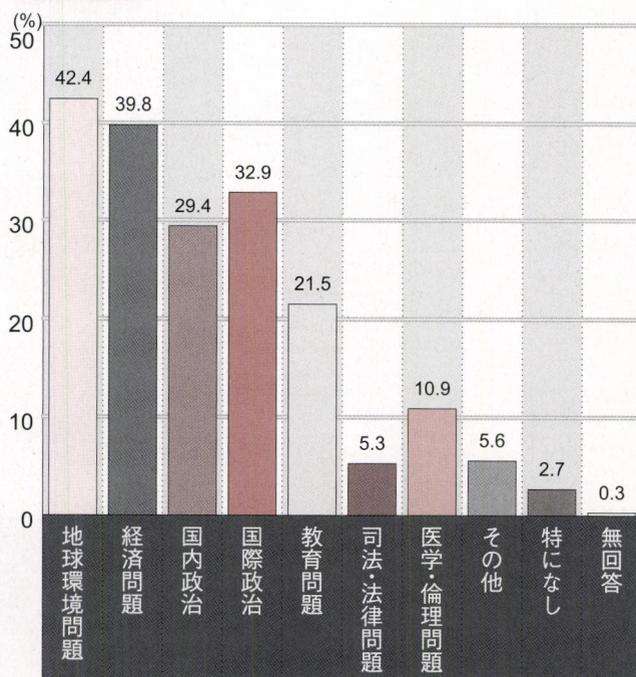
全体



学部



大学院

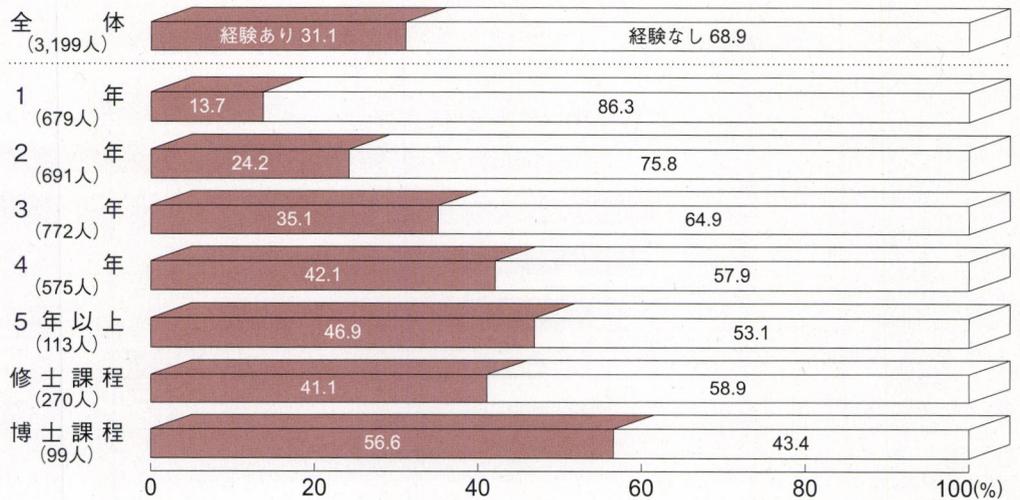


現在関心の高い社会問題を選んでください（主なものを2つまで選択） 所属箇所別



ボランティア活動への参加経験は低く、全体で約7割の学生が「経験なし」と答えています。ボランティア活動への参加経験は上級学年ほど増える傾向にあり、大学院学生では約5割の学生が何らかのボランティア活動に参加しています。学部別では、第一および第二文学部、人間科学部でボランティア活動

大学生になってからボランティア活動に参加したことがありますか？



の参加経験が高く、理系学部では約8割の学生が「経験なし」と回答しています。主なボランティア活動は「地域活動」(6.8%)であり、ついで「環境保護・リサイクル活動」(6.2%)、「幼児・児童

支援」(5.0%)、「障害者支援」(4.2%)、「スポーツ支援」(4.2%)ですが、社会的関心とボランティア活動とは相関はみられないようです。

経験のある人は主なものを教えてください (主なものを2つまで選択) 学年別

